

第1回次期「いわて建設業振興中期プラン」検討会 議事録

(開催日時) 令和8年7月6日(月) 10:00～12:00

(開催場所) エスポワールいわて 1階 小会議室

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 構成員紹介
- 4 座長選任
- 5 議事
 - (1) 「いわて建設業振興中期プラン2023」における取組の評価について
 - (2) 次期「いわて建設業振興中期プラン」の骨子案について
 - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉会

出席者(構成員)

沖野智章座長、宮野裕子構成員、石川奈緒構成員、山下宏道構成員、工藤直樹構成員
向井田岳構成員、上野千寿子構成員、山元一輝構成員、工藤監子構成員、戸田新構成員

1 開会

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

皆様、おはようございます。定刻よりちょっと5分ぐらい早いですが、皆様お揃いでしたので、開始させていただきますと思います。

只今から、第1回次期「いわて建設業振興中期プラン」検討会を開会いたします。

私は建設技術振興課建設業振興担当の篠木でございます。よろしくお願いします。

本日の会議でございますけどもすべて公開となっておりますので、御了承いただければと思います。それでは初めに、岩手県県土整備部沖野河川港湾担当技監から御挨拶申し上げます。

2 挨拶

○ 沖野県土整備部河川港湾担当技監

おはようございます。本日はお忙しい中、お集りいただきまして本当にありがとうございます。今日は、いわて建設業振興中期プラン検討会、第1回ということでございます。県では、平成5年に建設業の発展とその行動指針としまして、岩手県建設業振興指針を策定いたしました。その後、今の名前に変わっております。令和5年3月には、現在の中期プラン2023を策定して、建設業が目指す姿の実現のために、様々な施策に取り組んできているところでございます。この現行プランもいよいよ今年度でラストイヤーということでございまして、これまでの取組の成果、或いは反省点、こういったものを踏まえながら、次期中期プランを策定していきたいと考えてございます。

本日は皆様から、忌憚のない御意見をいただきながら、次の中期プラン策定に向けて、まずは第1回、皆様から幅広く御意見を頂戴したいということでお集りいただいております。時間が限られておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 構成員紹介

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

ありがとうございます。以降ちょっと座って説明させていただきます。

次に本日御出席いただいている方々の御紹介になりますが、お手元に配付してございます出席者名簿と配席図をもって代えさせていただきます。

4 座長選任

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

続きまして、座長の選任をいたします。当検討会の設置要領第4第1項の規定におきまして、座長は構成員の互選とするとされておりますが、座長の選任につきましては、差し支えなければ、候補者について、事務局から御提案させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

ありがとうございます。それでは事務局としましては、県の沖野河川港湾担当技監に座長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

異議なしということで、それでは沖野技監に座長をお願いしたいと思います。沖野技監は座長席へ御移動をお願いいたします。

それでは早速議事に移りますが、本日の会議時間は概ね2時間の範囲内ということで予定しておりましたので、円滑な進行に御協力をお願いいたします。

以降の議事の進行につきましては座長である沖野技監をお願いしたいと思います。それでは沖野技監、よろしくお願いします。

5 議事

(1) 「いわて建設業振興中期プラン 2023」における取組の評価について

○ 沖野智章座長

はい。それでは早速ですが、議事に入っていきたいと思います。本日は、まず、資料が1から5までございますが、議事の方は(1)、(2)、(3)とあります。まず、(1)の方では、現在のプランにおけるその取組の評価ですね、様々な反省など、いろいろあると思います。こういったところを振り返りながら、大体10時40分くらいまで、時間をとりたいたいなと思っております。その後、議事の(2)では、次期プランの骨子案というものを今、事務局の方で用意させていただいておりますので、これに対する率直な御意見とか、日頃思っていることや、様々な御意見を頂戴する時間を設けたいと思っております。それで大体11時45分くらいまでと考えてございます。どうぞ議事の進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。それでは議事の1、いわて建設業振興中期プラン 2023における取組の評価について、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局より資料1、資料2、資料3を説明]

○ 沖野智章座長

だいぶ厚い資料をかなりコンパクトに御説明をさせていただきました。ここで皆様から、確認

したいこととか、或いは御意見とかあれば、事務局の方でお答えいただきたいと思いますので、どうぞ、御自由に発言していただきたいと思います。

例えば、資料1の1ページ目では離職率の数字が出ていますが、これも実は例えばAという建設会社を辞めて、Bという建設会社に入った方っていうケース。その方は建設業界を結局離れていないんですけど、離職したということでカウントされていますので、必ずしもこれが建設業から離れていったということではないということで御理解をいただきたいと思います。

そういった形で指標もいろいろ今後工夫しなきゃならないかなと思います。

皆さん見ていて、何かこれおかしいなとかあれば、御質問いただければと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。はい。ありがとうございます。それではまた次の方にもまとめて御意見とか御質問を頂戴することもあるかと思いますが、それでは議題1については、以上といたしまして、いよいよ本題の議題2、いわて建設業振興中期プランの骨子案についてに入りたいと思います。

(2) 次期「いわて建設業振興中期プラン」の骨子案について

○ 沖野智章座長

まずは事務局から御説明をお願いしたいと思います。

[事務局より資料4、資料5を説明]

○ 沖野智章座長

ありがとうございます。只今の事務局から説明があった通り、骨子案というものを一応、土台といえますか、たたき台といえますか、こういったものは用意させていただいたということでございます。今日の会合では、必ずしも結論を出すことが目的ではなくて、皆様、普段のお立場で触れられている情報とか、懸念されていること、或いは今後こういったことを伸ばすべきじゃないとか、また経営の現場で今、起きていることなど、そういったことを自由にフリートークしていただきたいというふうに思っております。そういった今日、各構成員から出していただいた御意見をしっかり事務局の方で拾って、次の素案の中にどう盛り込むかといったようなことを検討していくというような流れにして、次は地域懇談会等の意見も踏まえた素案ということでまた後、少し絞って、御議論をいただきたいといったような流れで考えてございます。今日は、自由に御発言いただきたいと思いますが、また、テーマが重なっても、全然構わないと思っています。同じような項目でも、より厚みが増すと思いますので、或いはいかにその項目が注目されているかといったような目安にもなりますので、どうぞ、忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。

それで、ある程度時間がありますけれども、まず1回、一通り、構成員の皆様に、5分くらいずつお話していただいた後に自由な意見交換にしたいと思います。ということで、宮野構成員の方から、順番にどうぞよろしくお願いします。

○ 宮野裕子構成員

今の業界の現状というのは、まず1つは二極化。二極化しているのではないかな。あと、地域格差がすごい。この場では総論しか話せないの、極論というまではいかないと思うんですけども。その二極化と地域格差を何とかしないといけないと思います。資料3の産業別生産額で見てわかる通り格差が非常に大きいことは感じております。

次のプランですが、建設投資額の確保が土台になっていきます。建設投資額が減って、土台がどんどん薄くなっているの、その上にくるこの施策の1、2、3、4、5というのが難し

くなってくるのではと感じております。

その中でも、担い手の確保もそれから働き方改革、生産性の向上をちゃんとやっている建設会社もあります。ですから、一概にこれだからこうなっていくということはない。それは、この二極化の方の良い方に入っていくと思います。建設投資額が減っているのに合わせて、業者数や担い手が減っていくのではないかという話もあり、この投資額の少なさに窮している人たちが多いというのは事実です。でもそれをどうこうしろということとはできないので、やはりプランの中では、何に重点を置くかというのを考えていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

その中で、離職率が高いと言いますけれども、建設業だけが高いわけではないと思います。他の業種でもすぐに離職してしまう人がいると聞くので、一概に建設業だけが離職率が高いわけではないと思っていけないのではないかと私自身は思っております。

これから振興プランとしてどこに訴えるのか、目線によると思います。世の中に向かって建設業の良さをアピールするならば、標準労務費の実現が一番だと思います。それから業界内では、中途採用が必要だと思います。新卒は高卒だけでなく、大卒でも大手に入って辞める人が結構いるので、中途採用に関する何かいいプランがないかと思っています。

ですから次のプランに関しましては、この二極化と地域性というのを少し入れていただいて、考えてもいいのかなと。やはり一番の建設業の振興というのは、入札制度になると思います。業界の意に沿った制度にすればいいのかというと、そんなことはないです。何がいいのか私もよくわからないのですが、これが経営力の強化のところに入っています。入札制度も含めたプランを考えていけばいいのかなというふうに思っております。

何度も言いますが、この二極化と地域性を何とかしないと大変になるのかなというような思いで建設業を見ています。当社といたしましては、企業数が多い方が部数が増えるので良いですが、もうそうはいかないのではないかなというように感じて経営の舵取りもしているところです。なので、ちょっとバラバラですが、この二極化と地域性。それから土台が事業費の確保と言うのであれば、事業費をどうやったら増やせるのか。業界にとって効率よくというか、うまく事業費を使う方法というのは何なのかを皆で考えていただきたいなというふうに思っております。

○ 石川奈緒構成員

私の方からは大学なので、人材とあとDXのことを少しお話させていただきます。大学も結局、土木のコースを受けてくれる人がいないと、後々、入職者がいないわけですが、先ほど宮野構成員がおっしゃいましたが、厚労省がやっているアンケートを見ると、離職率は建設業が高いというほどでもないんですね。やっぱり他の産業も割とあって、全部の産業の中では低い側に位置しています。私が見ているアンケートは全国なので、岩手県が実際どうなのかというところはちょっと見られませんが、ただ気になっているのは、入職率の方で、入職率はやっぱりちょっと全産業の中では低いんですね。なので、やっぱり入職する人を増やしていかなきゃいけないというところがやっぱり担い手、特に若い人を入れるのにはやっぱり取組は必要なんだなということになりました。

もう一つ、他のアンケートを厚労省がやっているのをちょっと見ましたが、初めて入職した理由として、友人とか母校の先輩からの紹介とか、家族とか親戚からのおすすめというのが、60%くらいなんですよ。なので、やっぱり保護者とか、就職した先輩に高校とかに行って話してもらおうとか、こういう身近なところを巻き込んでいかなきゃいけないと思います。特に保護者の理解というのがすごく必要だということで、私、フォローアップ会議のときにもお話して、資料2のところに入れていただいていますけれども、やっぱりフォーラムですよ。建設業みらいフォーラムのところ。これは結構、参加者が多いことがわかって、すごく良い取組だとは思いますが、

親御さんが参加できるような形にするとすごく良いのかなと思います。あと、ちょっとわからなかったんですけども、建設業みらいフォーラムが普通高校からどのぐらいの参加者があるのかなというのが気になっていて、結局、建設業と書いてあると建設業に興味のある人が来るんですよね。なので、もうちょっと広く、なかなかちょっと難しいかもしれないんですけども、いくつかの産業の紹介フォーラムみたいな形にして、その中に建設業というブースというか、いろんな産業を知ってもらう中で、アピールできるというようなイベントがあってもいいのかなと。他の産業も多分、人を欲しくしているところがあると思うので、そういうところと共同してやると、普通高校の親御さんとかも来やすいと思うんですよね。そういうのはどうかと思いました。

あと、そのアンケートの中で現在の会社に就職する際に重視したことというのは、仕事の内容が最も多いですが、若年層の建設業に最も魅力を感じる点は、技能を磨いて、現場で生かすというようなことのようにです。一方で、この仕事でどういう技能とか、知識とか能力が必要かというのはあまりわかっていないというのが、若年層には多いんですよ。なので、もうちょっとこういう資格が取れるとか、こういう技能が身につくということもアピールする。大学のパンフレットもそうですが、例えば測量士補や技術士補が取れますよということ、親御さんの方に効いてくるんですよね。なので、やっぱり保護者の取込みというのがすごく重要なので、そういうところがアピールできるようなものがあるといいなと思います。

あともう1つ最後ですが、建設DXですね。資料を見るとやっぱり、なかなか取組が難しいということはよくわかりますが、学生の方からすると、こういうことにすごく興味があるみたいです。私は今、農業土木の方にいますけれども、スマート農業とかに興味がある子がすごく多いということもわかりました。理工学部の方ではちょっと前から、デジタル系のコースを1つ作ったんですよ。1年生のときは、オープンクラスでデジタル系のことを学んで、2年生からはどのコースに行ってもいい形で、14人しか枠がないですが、ほとんどが情報コースに行くと思っていたんですが、2人だけ建設の方に行ったんですよ。ということは、DX系というか、ICTとかを建設業がやっているということを知っている人がいて、それをやりたいと興味を持つ子はいるんですよね。なので、もうちょっとアピールしていくと、もしかしたら、建設系に入ってくる子もいる。ただ、一方で、皆さんに取り組んでももらわないとそれができないというのがちょっと難しいところではあるんですが、建設DXの推進というのは実は担い手確保にも繋がってくるところでもあるので、ぜひ皆さんで、いいやり方を考えていただけたらと思います。以上です。

○ 沖野智章座長

今、質問が1つ出たんですけど、みらいフォーラムへの普通高校の参加者とか、どんな感じになっているかというのがあったんですけど、今ありますか。

○ 事務局（県土整備部建設技術振興課 大畑主事）

みらいフォーラムの参加者なんですけれど、詳細なデータは今持ち合わせてないのでお答えできないんですが、ほとんどの参加者が県内の工業高校と産技短の設備系と建築の学科の学生さんでして、普通高校からの出席者の方は、正直あまり少ないような状況です。令和5年度には山田高校から1人来ていただいた実績はあります。

昨年度はポスターとかチラシを盛岡市内の普通高校を中心にお配りはしたんですけども、やはり平日で授業などもあるので、なかなか普通高校の参加される生徒さんがちょっと少ないような状況となっています。

○ 沖野智章座長

ありがとうございました。それでは、山下構成員お願いします。

○ 山下宏道構成員

私どもの資料を使っているのが 24 ページでございまして、25 ページに東京商工リサーチさんのデータがありますが、私ども保証会社と多少関連がございまして、24 ページ、25 ページについて多少の補足というか見解をお伝えさせていただきます。

まず、24 ページに記載されている建設業の経営状況についてですが、総資本経常利益率については全体ではこのような推移でございまして、売上高規模ごとに見ますと、1 億円未満がマイナス、1～5 億円が 2.52%と若干プラスとなっています。県の方に御提供している資料が全業種でございまして、これを細かく見ると、例えば、1～5 億円の売上高階層においては、土木建築の経常利益率がプラスではないとか、電気の総資本経常利益率が 4.70%と高いとか、業種別の違いがあります。また、数字のマジック的なものになりますが、売上高階層間の移動が実はございます。同じ企業を対象にしていないので、去年までは 30 億円以上だったのに今年度は 10～30 億円の階層に移動することがございます。この売上高階層間の移動が意外と重要なことだと思ってございまして、例えば、令和 3 年には 30 億円以上の売上高階層の方が全体で 26 社いたのですが、これが令和 7 年になると 12 社に減っているなど、売上高階層が小さい方に移動するという現象が起きています。確かに 1 億円未満の売上高階層の不振ぶりが際立ったデータになってはいますが、実は各売上高階層ともに経営状況の面ではかなり御苦労なさっているということが言えるのではないかなと思っています。

ただ一方で、宮野構成員がおっしゃった二極化のような現象が売上高階層に関係なくできているのは事実かなと考えておりますので、もう少しきちんとした分析をしていく必要があるのかなと思っています。

また、通常ですと、経常利益がマイナスになっている企業ですと、自己資本比率は分子の純資産が減少するため、低下する可能性があります。それが右肩上がりでずっと上がり続けているデータとなっており、この辺りはもう少し分析をしていく必要があるかなと思っています。

25 ページの東京商工リサーチさんのデータによると、確かに県内の建設企業の状況、倒産件数が最も多い状況となっていますが、私どもの感覚では公共工事を受注する企業については、今のところ、ここまで顕著なデータは出ていない現状です。恐らく下請企業ですとか、民間企業で残念ながら倒産している企業が多いのかなという認識です。24、25 ページの私どもの御説明は以上ですが、それ以外に私はこの 4 月に岩手県に赴任しまして、いくつか気になった点について意見として申し上げます。

2 つございまして、1 つは外国人労働者についてです。昨年までは 3 年間東京におりまして、東京の現場をよく拝見したんですが、ほとんどすべての現場でと言って差し支えないと思いますが、外国人労働者の方がいらっしゃるように記憶しています。資料で言いますと、17 ページに外国人労働者の受入れ状況というグラフがございまして、これが意見として正しいものかは別にしていただいて、外国人労働者の状況というのは場所によって差異があるんだなと強く感じたのが 1 点目でございます。

2 つ目ですけれども、資料の 1 ページに離職率の表があり、11.9%となっています。沖野技監から補足があり、業界内の移動がカウントされているというお話でしたので、これよりは肌感少ないのかもしれませんが、少し多いのかなと感じました。離職率と直結するかはわかりませんが、新たに採用された企業に同じような年代の方が少ないケースが多いのが現状かなと感じておりまして、実際、営業として各建設企業を回らせていただいたときにも、30 歳以下の若い職員の方が少ないように感じます。若い職員が社内にお一人しかいない環境では、ジェネレーションギャップがあって、なかなか打ち解けにくかったり、相談する相手がいなかったりすることで離職されてしまう方が中にはおられるのかなと感じてございます。行政でも業界団体でもよいのかもし

れませんが、そういう方々に対して、世代毎の研修ができたりするとお互いの情報共有ができて、離職率にも良い影響があるかもしれないと思います。

○ 沖野智章座長

ありがとうございました。工藤構成員お願いします。

○ 工藤直樹構成員

商工会議所連合会の工藤です。商工会議所としては、全産業というか商工関係ですけれども、いずれ政府の成長型経済の実現という方針とか、一方で物価高騰とか人手不足という中で、よく言われるのが稼ぐ力の向上、稼ぐ力を高めていかないと小中規模事業者が生き残っていけないし、いずれ高めましょうと。そのためには生産性の向上、そして付加価値の向上が必要です。特にこの物価高騰、資材高騰、そして人件費を引き上げないと人手不足に対応していけないという中で、適正な価格転嫁が必要でありまして、県ではパートナーシップ構築宣言をする企業さんを増やしましょうとかですね、県の商工労働観光部の会議とかに出ると、そういう感じで、商工会議所としても一緒に適正な価格転嫁を進めましょうということで進めています。取り組んではいるんですけれども、なかなか進まないということで、去年の中小企業庁の調査だと岩手県は受注企業側、発注企業側いずれも最下位とか下から3、4番目とかということで、業種とか産業構造にもよるんじゃないですかねみたいに言われたりしているので、岩手の建設業がどうかというのまではちょっと把握していないんですけれども、もし価格転嫁がもし進まないという状況があるのであれば、それを一層進めるということが大事なのではないかなというふうに思っています。

プランについてはそんな感じですし、いずれ会議所としても個々の企業への支援ということで、適正な価格転嫁を含めて進めたいと思っていますし、あと人手不足に対しては若者とかの地元定着を進めるということで県とも連携して、企業と大学の担当者とのマッチング事業とかもやったりしています。

あと今日のプランにも出てきていました事業承継は大きな課題だと思いますが、商工会議所で国から受託して岩手県事業承継・引継ぎ支援センターの業務もやっておりますので、こういったのも御活用いただいたりして、そういった課題に対応していければいいのではないかなというふうに思っております。私からは以上です。よろしくお願いします。

○ 沖野智章座長

今、4人の方からお話をいただいたところで、事務局から何かお話の中で所感とかあれば、或いは何かこういうデータがありますなど、いかがでしょうか。

○ 事務局（篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長）

山下構成員の方からは2つのポイントということで、外国人労働者と離職率に関しての状況ということで御意見をいただいておりますが、今回ですね、プランの骨子案の中で最重要課題としてはこの担い手というのを掲げた中で、多様な人材確保というような文言を入れております。これはですね、宮野構成員からもお話ありました中途採用も含めまして、新卒に限らずですね、こういった外国人或いは中途採用の方にもどうやって建設業に興味を持ってもらえるかということこの次の4年間で考えていかなければならないというふうには考えています。外国人で言いますと、アンケート調査にもあるように9割近くがまだ入職には至っていないということでしたので、今、国の方でも制度を見直ししている状況でもありますので、こういった情報収集をして、それを地域懇談会などを通じて、企業の皆さんとも意見交換して、中途の方も含めてどのような方策がいいかということのを常にブラッシュアップしていきたいなというふうに思いま

す。

あと 30 代以下の方がジェネレーションギャップと言いますか、相談できる相手がいないというお話なんですけれども、1 つ、アンケートの中で離職する理由としては会社の中で雰囲気あまり馴染めなかったというようなデータもありますので、給与とか休暇とか以外にもこのような気持ちの部分で希望を持って、若い人が働いていけるような方策はどうしたらいいかということで御意見も参考にさせていただきたいなと思いました。以上です。

○ 沖野智章座長

ありがとうございました。それではまた戸田構成員からお願いしたいと思います。

○ 戸田新構成員

県庁の出納局の戸田と申します。どちらかというと立場的には構成員よりは事務局の方に近いのかなと思うので、何かここであまり実態云々と話できることはないんですけれども、入札というのは基本的には適正な入札執行というのが我々が所管しているところの使命なので、まずそこは第一ではあるんですけれども、建設業界の振興という側面にも制度としてそういうところがあればですね、そこら辺も皆さんの御意見を伺いながら、今度とも制度の改善というのはしていきたいなというふうには思っています。短いですが、以上です。

○ 工藤監子構成員

まず私はけんせつ小町部会から来ておりますので、若者、女性等の入職促進ということでそれが増えているという、増加傾向となったということはとても良いことだと思います。

私がけんせつ小町部会の委員になったときから、適切な服装、道具ということに取り組んでいます。当時 10 年くらい前は、女性の体に合った安全靴とかも 25 cm 以下はございませんでしたし、それから服装とかも男性の S サイズでも女性にはぶかぶかで、体型も全く違いますから、そういうものをきちっと普及させていく必要があります。ただ体型が違う、ぶかぶかというだけじゃなくて、安全面にも繋がるので、安全帯とかハーネスもやはり女性の体に合った道具とか器具を普及させたいというものをずっと目標に掲げております。だいたい安全靴も 22 cm とか 23 cm もありますし、大手建設会社は女性の体に合った女性用の作業着を用意されたり、あとメーカーさんでもかなり作られるようになりましたし、ハーネス等もだいたい改良が進んできているということで、良いことではあります。

あとまた、御手洗いとかは、やはり県の方とかでも御配慮いただきまして、増えてきたということはとても良いことだとは思いますが、ただやはり、その反面ですね、意識とか考えのところではまだまだというところがあります。例えば、担い手の確保・育成のところのアンコンシャス・バイアスをテーマとした講習会というのがありますが、私も昨年、参加しました。その他のけんせつ小町部会でやっているいろいろな講習会がありますが、これらはやはり女性が受けるのではなく、男性の方、特にも経営層の方たちに受けていただいたなと思います。やはりそういう経営層の方の意識が変わらないと現場とか、その他の意識も変わらないので、今でも女性には現場とか危険なことはさせられないと言いますが、もちろんそれはそうなんです、それによって女性の活躍できる能力を考えによって狭めてしまっているというのが問題だと思うので、もっと多くの方にアンコンシャス・バイアスをなくすような活動をこれからも続けていきたいなと思います。

先ほど宮野構成員がおっしゃいました小さい会社が減って、ICT などに対応できずに減っていった、結局、建設業自体の資本投下とかが少なくなっているから、業界自体がスリムになってという話もありますが、それでいいのかということで、そういう小さな会社こそが建設業を

支えてきたというようにところもありますので、ICT等に対応するように、小さい会社に無理強いではなく、別の形で参加できるように考えをできないのかと私は思っています。

最後ですが、建設業の魅力伝播、イメージアップということですが、非常に今、インターネットやスマホの普及によって、情報が以前よりものすごく多くなっています。それによって、前みたいにテレビでやったから見てもらえるとか、そういう時代ではございません。ですから、小さな情報でもいいから、少しずつ出して積み重ねていけば、それが誰かの心に刺さります。例えば、東日本大震災のときにドクターヘリが活躍しました。ドクターヘリの絵を見て、人を助けたいということで、お医者様になった高校生の子がいます。そういうふうに何が刺さるかわからないから、やはり、いろいろな建設現場とかそういうものの情報を少しずつ出すことによって、若い人の入職に対してやっていただきたいなと思います。

それで、県土整備部さんが美しい県土づくりNEWSということで、Twitterをやっているんですが、それが非常になんと言うか、小さな活動、いろいろな情報だったり、女性活躍企業の御紹介をしたりとか、何か災害が起こった時に素早く情報発信するとか、素晴らしい取組だと思って、その一つひとつの積み重ねが誰かの心に刺さると思うので、ぜひ続けて欲しいと思います。

○ 山元一輝構成員

青年部の会長を務めております山元と申します。今回、初めて参加させていただいたので、今現在、私が感じているこの建設業の課題と言いますか、改善していかなきゃいけない部分というのをちょっとお話させていただきます。

資料32ページの方でちょっとお話させていただきたいんですが、担い手の確保が最重要課題、これまさしくそうだと思っております。私が感覚的に思うのが、保護者の建設業に対するイメージというのは、私、地元が釜石なんですけれども、非常に悪いというのは肌感覚的に感じております。我々青年部では、毎年、ふれあい事業ということで、各地域の小中学校、高校にお邪魔して、建設業に関するPR活動をしているんですけれども、実際その場で話を聞いたり、又聞きもあるんですけれども、子どもたちの中では非常に建設業に対するイメージが良くなってきているのかなと思います。一方で、子どもたちが実際に就職活動をしていく中で、保護者の意見に従ってしまうので、結局、地元の会社よりネームバリューのある大手企業に就職して欲しいということで、実際、釜石も昨年、地元の建設業に入ったのが1名です。これはもう本当に多分何年ぶりの入職者というふうに聞いているんですけれども、ほとんどが地元にある大手工場だったり、当然、県外に離れて大手企業さんに就職されたいというふうに聞いておりまして、子どもたちもなんですけれども、その保護者世代というか、あと建設業に対する無関心な層と書いてありますけれども、こういった層にいかにかこう響かせることができるのかというのが、今後、業界のイメージアップを含めて、やっていかなきゃいけないことなのかなというふうには感じております。

あとですね、32ページで言うと、4番の経営環境の安定化ということで、今、やっぱり資機材の高騰、物価の高騰ですね。今非常に建設業者の利益率というのが悪くなっている状況でございます。私も地域懇談会等でお話してもらった記憶があるんですけれども、今の調査基準価格の設定を直工費の何パーセントとか、そういうふうに設定されていますが、調査基準価格の引上げをしていただかないと、ただでさえ今、工事件数、事業量が減ってきている中で、少ない中でいかに利益を上げていくかというのが、この調査基準価格の引上げというのが非常に大事なのかなというふうに思っておりますので、それも一つ今後の課題として検討していただければなというふうに思っております。

私は今、青年部という組織に属しておりまして、比較的直系の次期社長というか、もう社長になられている方もいらっしゃいますけれども、後継ぎの方とお話する機会が多いですが、皆さん、

事業承継が本当にできるのかどうかというのを心配しております。というのも、今、ちょうど国の方で非上場株の評価額の改定を議論されているところで、恐らく再来年から施行になると思いますが、相続する際の非上場株の評価額が高くなる方向になりそうということで、やっぱり中にはもうもし相続できないような税金を払わなきゃいけないのであれば、もう辞めますと言って仲間もいますので、商工会等も一緒にそういった事業承継を何とか円滑に解決できるような御提言をしていただければなというふうには思っております。

あと最後になりますけども、宮野構成員が言った通りですね、建設投資額の確保、これがすべての根本的課題だというふうに思っております。あらゆる課題等ありますけれども、やっぱりそれを解決するうえでは、元となる事業量が必須だと思っております。そういったところでまた引き続き、国等への要望等、いろいろとお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。以上です。

○ 上野千寿子構成員

女性協議会の会長をしている立場からお話をさせていただきたいと思っております。数年前に女性活躍という言葉が大々的に取り上げられて、その頃は熱量がすごいなと思っていましたが、それがどんどんトーンダウンしてきているなというふうに感じています。言葉だけが独り歩きをしていて、何で女性活躍なんだということはもう忘れ去られているというか。それは建設業界にも同じことが言えるんだと思うんです。いろいろまだ世代交代されていない会社さんがたくさんありますので、その中で、女性活躍の本当のところがどうなんだというのを忘れてるんじゃないの？とすごく思います。もう終わったよとかそうじゃないでしょと。業界を良くするためにはやっぱり女性の参画はすごく大事なことで、男女共同参画社会というのも世の中で女性の参画は必要だからすごく叫ばれているのであって、それが何かを忘れてる訳ではないと思いますが、大事なところを落としていて、誰もが誰もがと、皆だよとまた言っちゃうと、皆って誰？となってしまって、また置き去りにされていくような心配な面というか、最近それをすごく感じています。

なので、女性はすごくいろいろなものを抱えているので、男性と違って家庭のことなど、いろいろな制約も多いです。うちの例ですが、無理かなと思いつつも女性事務員5名と目標を掲げました。1名だけでしたが、時短などのいろいろな工夫をして、今、5人いるので、工夫をすれば女性の方たちに働いてもらえるものというのか、いっぱいまだ可能性というのがあると思っています。だから、そこは皆さん忘れないでねとずっと言い続けなきゃいけないなと思っていることが1つです。

あと、今ICTとか、BIM/CIMとかいろいろ出ていますが、これに関しても女性職員の方がとは言くと語弊があるんですけども、男性はやっぱり現場に出るともう現場だけになるので、余裕がなかったりするんですよね。そういうときに助けとして、力を発揮できるのは女性職員なんじゃないかなという思いがあります。

また、さっきから建設DXということがいろいろ出ていますが、この建設DXに関する認識ですね、必要だよということを経営者さんたちがまだまだ理解できていないんじゃないかと思えます。こうやってBIM/CIMなど、いろいろとやってみるとすごく難しいことのように思ってしまうって、でも本当は各社さん、それぞれの特色があるので、身近に実践できるものがあるという意識を県の皆さんにもなんですけど、私たちも建設業界の方たちにも協力して、そういうのを進めさせていただきたいなと思っております。すごくカタカナがいっぱい並ぶと難しいというのか、この間もBIM/CIMはうちの監督さんには無理だなとおっしゃっていた会社さんがありました。でもそれは、今までやったことがないからとかで二の足を踏むというような感じですが、若い人や女性も含めて、皆でこういうこと、ああいうことができると思えば、そんなに難しいことではないというふうに私は感じています。だからそれをそんな難しいことじゃないんだよということをもっと

わかりやすくやっていただきたいと思います。私からは以上です。

○ 向井田岳構成員

建設業協会の向井田です。いつも皆さんの前で話すのですが、現在、岩手県の協会会員数は498社です。平成11年には807社でした。震災の年、平成23年には543社になりまして、震災後に増えましたが、一番増えた時で551社でした。震災から16年目になり、現在、498社となりましたが、それでも東北6県の中では、会員数が一番多いのが岩手県です。

我々の協会は、県や国をはじめ、様々な行政機関と災害協定などを結ばせていただいております。県内に13支部あり、しっかり協定を守るためには、各支部に機動力がある地域建設業者が存在して初めて成り立っていると言えます。建設業者の空白地域では、地域を守ることが難しくなっていく可能性があります。「地域の守り手」という言葉が、先日新聞にも出ていて、我々も度々このフレーズを使わせてもらっています。「地域の守り手」であり続けるためには、皆さんからも出ましたけれども、地域建設業が経営を維持できるだけの継続的な建設投資が必要であると思います。「地域の守り手」を守るためには、この点をどうしたらいいかというのをぜひ、県の幹部の方、県民の方々にも、我々と危機感を共有して考えていただきたいと思います。我々も、使命感だけではなかなか難しい時代になってきています。

よくこれもお話させてもらうのですが、我々はもちろん頑張って仕事をするために会員同士は協調しているんですね。協調はしていますけれども、さっき皆さんもお話ししました通り、1社1社の経営は自己責任です。協調もしますけれども、競争という関係でもあるのです。今、仕事量の減少や利益の低下、人手も不足し、経営環境が大変厳しい時期を迎えていますが、もう少し頑張ってくれないかという話をさせてもらっております。

経常利益率の話がありましたが、比較的規模が小さい会社がマイナスになっているというデータです。さっきお話を聞いたら、決算年で階層が移動するということで、一概には言えないという話でしたが、ICTこそは規模の小さい会社のためになるように、安くて簡単なものにしてほしいと長年言い続けてきました。ICTの推進自体には、一切反対したことはありません。安くて便利なものにすることで、規模に関係なく、現場で自然に普及するような仕組みにしてほしいということです。総合評価などの評価を上げるために取り組むものであってはならないと思います。

ASPについては、そのような情報共有の仕組みを、我々の協会がいち早く導入してきました。協会の会員全社が使えるよう、安く簡単な方法で普及を図りました。ICTやDXは、規模が小さくて、人手不足の会社でも使えるようにぜひこういう方向に持って行ってほしいです。もちろん、トータルでは我々、1社1社は民間ですから自己で頑張るしかないんですが、ICTにも色々なやり方があるので、取組に制限をかけるのではなく、小規模な会社の底上げにつながるよう、独自の工夫や取組も適切に評価される制度に持っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

○ 沖野智章座長

ありがとうございました。今、後半の話も含めて、事務局から何か所感、ございませんでしょうか。

○ 事務局（篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長）

まずですね、女性活躍に関する御意見、工藤構成員、上野構成員からいただいております。先ほどお話したとおりですね、多様な人材というところに当然、女性も含まれてきております。やはりお話あったようにですね、アンコンシャス・バイアスとか、ジェンダーギャップに関しては

一般的には普及しつつあるんですけども、経営層の方に理解いただいて、社内で制度化をしたり、働きやすい物理的な環境も含めて整えていただくということの定着と、あとはその先で自分自身のロールモデルだとか、目標にも繋がってくると思いますので、引き続きですね、県の方でも今年度もアンコンシャス・バイアスは講習会とかもやりたいと思っていますし、そういった女性活躍はけんせつ小町部会の中でも今年度、いろいろ取組状況を共有しながらですね、中期プランでも進めていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

それから、山元構成員から地元での今の担い手の状況というお話をいただいております。やはり小中学校とか、そういう小さい段階から保護者も含めて、関心がない方にどうやって引き寄せていくかというところがすごく大きな課題だなというふうには私も思っています。フォーラムと言うのもありますけれども、それ以外でも地域での講習会、出前授業のやり方をどうするかというのも今後、引き続き考えながら、取り組んでいきたいなとも思いましたし、石川構成員からも保護者目線というふうなお話があったので、引き続きそれは検討して参りたいというふうに思いました。

あと、向井田構成員からですけども、ICTに関してですけども、冒頭、二極化というお話がありましたが、やはり小さい規模の会社では入口に入るところで経費がかかったりとか、そもそも人材育成のところまで止まっているような、そういう御意見も伺っていますので、県では今、いろいろものに対する補助とかいうようなことはやっていますけれども、経営者の方も含めてですね、理解促進だとか、それを動かす人材育成を小さい規模の会社の方にも訴求していくようなそういうような取組をちょっと今後、考えていきたいなというふうに思いました。ありがとうございました。意見は以上でございます。

○ 沖野智章座長

ありがとうございます。それでは、私も構成員の一人ですので、私からも、職の立場関係なく、1個人として簡単にフリートークさせて欲しいなと思います。

宮野構成員からは、中途採用者の確保が大事だねという話があって、私もそう思っています。都会への憧れとか、もっと広い世界を見たいとかいろいろな人もいらっしゃるの、あえて、卒業したらすぐここに入社しろと言うのは酷な話かなというふうに思っていますし、実際、岩手から出て行って、また帰ってくるという方がたくさんいらっしゃって、その中から建設業を選んでもらうというのがやっぱり大事なかと、そういう視点も必要かなとずっと思っています。

今、県の方では、小中学生を相手に出前授業をしています。すぐ建設業を選んでもらわなくてもいいんです。建設業の仕事をわかってもらえれば、恐らく、学んだことはずっと覚えていてもらえるので、もしかすると、40代になってから、もう東京は疲れましたと言って戻ってきたときに建設業を選んでもらえるかもしれないと思っています。長い目で見て、そういった種をまいていくというのは大事なんだろうなと思っていますので、すぐに結果が出なくてもこれは息を長く続けていく必要があると思っています。

それから建設投資額の確保ですね。やっぱり何だかんだ言っても、この建設投資額は建設業の血液ですので、ここが足りなくなると生きていけないというのは当然のことかなと思っています。なかなか県だけで建設投資額を増やせるような状況ではないですが、やはり国の方でも、同じような意識を持っていただいております。何とかうまく当初予算ベースでいうと6兆円というベースをちょっとずつ、ちょっとずつ伸ばしてもらっているというところがございます。ただ、最近は国土強靱化関係で補正予算がどんどん付いていますが、今度、高市内閣では当初予算に一本化するような話があり、そのときに補正予算の分はどうなるんだろうという心配が尽きないところかもしれませんけれど、やはりこういった声を構成員の皆様からおっしゃっていただきましたので、県は県としてしっかりそういった要望をし、この間も霞が関で要望してきましたけれ

ども、引き続きしていくということが大事なかなと思います。

あとは最近、半導体関係で関連工事、宿舍の建設とか、そういったものも盛んになっていると聞いております。そういったことは明るい材料ではあると思ってしまして、いかにそういった民間投資を呼び込むかというのも、県の政策ともリンクしながら、しっかり頑張っていく必要があるなというふうに思っております。

それから、担い手確保については、みらいフォーラムをやっていますけど、やはり人口減少の中で、農業にしても漁業にしても様々な面で担い手不足は、同じような状況だといったものがあります。そういった中で、私は3月までは大船渡で副局長をしていましたが、気仙地域も同じような状況があったので、石川構成員から御提案があったとおり、業界の壁を越えて職業紹介のイベントをしましょう、U・Iターンの方の職業選択提案を一緒になってやりましょうという取組も検討しておりました。そういったものがどんどん増えてくれればいいかなと思っていますし、その中で県土整備部としては建設業に特化していくような形を続けていく方がいいのかなというふうに思っております。

すみません。ちょっと長くなりましたけど、稼ぐ力は非常に大事だと思ってしまして、やはり利益がないと、会社というのは発展しませんので、それは十分理解しております。よく私は職員に話をするときは、自分の現場で赤字を出させないようにという話は必ずしています。監督員が決まりどおりやるのはいいですが、現場の実態をしっかりと見て、自分の現場で赤字を出したら恥ずかしいと思わなきゃいけないよと、それは監督員の段取りが悪いことも原因にあるんですよといったことを口酸っぱく言ってきております。なかなか浸透していないところもありますが、やはりそういった考え方を持つ職員がどんどん育ってくるのが大事なのかなというふうに思っております。そして、しっかりと現場で利益を出していただいて、それを社会に還元していただくということが望ましいかなというように思っております。

最後1つだけです、マスコミの取材に対して私から言わせてもらいましたが、この今の立場で何が目標ですかと言われて、ぜひ建設業をリスペクトされる業界にしたいんだというお話をさせていただきました。ご職業は？と言われて、医者ですと言うと、それはそれはと言われる。金融業ですというと、しっかりとしたお仕事ですねと言われる。そこで、建設業ですと言ったときに、いつもありがとうございますと言ってもらえるような、そういう業界になってほしいとかねがね思っています。中期プランがどんどん浸透して、将来、そういった業界になってくれればいいなと思いながら、こういった業務を今、進めているというところでございます。長くなって恐縮でございます。

ということでまだ時間があと15分ぐらいありますので、皆様、何か補足したいとか、何かちょっと聞いてみたいとかですね、ありましたら挙手していただいて、お話していただいて結構ですので、お願いします。宮野構成員お願いします。

○ 宮野裕子構成員

このプランの立ち位置をきちんと考えていく必要があると思います。この立場になって、もう20年もやっていますけど、何か霞がかかっているようなプランを作って、毎回それを業界に説明して、意味がわからないうちに終わってというのを繰り返している気がしています。私も代表として、次のプランは業界をどのように持っていくのが振興なのかというときに、私は業界紙を作っておりますが、業界の方でもないのでもちょっと異論はあるかもしれませんが、地域の中には、このままでは立ち行かない地域もあります。仕事がない中で、どんどん疲弊していくときに、何が業界を支えて、何かあったときに頑張ることができる業界になれるのかというのを考えると、地域維持型というのが必要だと思います。一概には言えないですが、やっていい地域がもうあるんじゃないかと思います。ですから、何を言いたいかという、少ない事業費を他に出さ

ないようにする地域維持型とか、施策を考える会ではないのでそういうのは言えないかもしれませんが、ただ業界というのは、先ほど向井田構成員もおっしゃったように協会員であり、一つの会社として競争という関係があるので、一概には言えないんですけども、そこまでやっていかないと多分、何かあっても地域の守り手としての役割を果たせない地域が出てくると思います。

いろいろな意見があるので、全てで地域維持型をやることは難しいと思います。でも、誰かが何かをしなければ、このまま事業費はそう簡単には増えないので、それをうまく使う方法、地域から事業費が出ないような地域維持型というのはないのかなと考えています。できれば次のプランを考えるとときには、業界には厳しいかもしれないですが、一般の方からリスペクトされるためには業界も姿勢を見せないといけないと思います。

今は震災もありましたし、大災害も発生しているので、業界の力、建設業というものもだんだんと認められてきましたが、これと保護者として自分の子どもたちが建設業に就職することは別のことです。保護者の気持ちを変えることは難しいと思うので、せめて私たちの進むべき道を少し厳しい言葉を入れてでも考えてもいいのではないかと思います。

もう一つは女性が活躍していて、もう男女関係ないです。女性をそんなに低く見ないでくださいと私は言いたい。

○ 向井田岳構成員

さっきの補足というか続きになりますが、県営建設工事入札参加資格者数に占める土木工事の県内業者における協会会員の割合ですが、A級が約99%、B級が約90%、C級は5割切って、約41%です。協会会員数は岩手が現在498社ですが、青森が189社で他の4県が240社から275社ほどです。先ほど話したとおり東北6県では岩手県が最も会員数が多い協会であり、企業規模に関係なく協会に加入いただいています。注意しなければならないのは、規模が大きく違う企業を同列に論じると齟齬が生じると思います。私はICTを含めて企業規模に関係なくABC級全体の底上げを訴えてきました。

それと、維持工事の話が出ていました。維持工事は手間がかかり、利益を上げることが難しい面があります。震災のときにも、ほかに条件の良い工事があつたとしても、地域にいる会社は維持工事も担わなければならないと話してきました。これは県も国も含めてですが、地元の業者がその時々で自己都合で維持工事を手放すようなことがあってはならないと思います。地方の中小建設業者として地域を守ることは、自らの存在意義にも関わることです。苦しくても歯を食いしばって頑張らなければならない場面もあると思っています。もちろん、一社一社がそれぞれ経営していかなければならない中で、大変難しい問題でもあります。ちょうど震災当時、私は副会長を仰せつかっていましたので、様々な状況をつぶさに見てきましたし、行政からも様々なお話を伺いました。仕事が少ない時も多い時も、自らの存在意義にも関わることで姿勢を変えてしまうと、先ほど申し上げた協調と競争の関係が成り立たなくなり、苦しくなると思っています。

今、宮野構成員からお話のあつた地域維持型についてですが、私が東北建設業青年会の会長を務めていた頃に、大きく注目された時期がありました。全国の仲間にも、協同組合などで取り組んだ事例がありましたが、その中には失敗した事例もありました。複数の企業が関わる中で、安全管理をはじめ、経理処理など、多くの課題があることも聞いてきました。良い面もありますが、不具合が生じる面についてもしっかりと検証し、地域の建設業者にとって本当に良い仕組みをつくる必要があると思います。

多くの課題を整理した上で、全国で問題となっている「医療空白地域」や「交通空白地域」と同じように、「地域の守り手」の空白地域をつくらないための施策について取り組んでいただければと思います。よろしく願いいたします。

○ 沖野智章座長

ありがとうございます。あと5分くらい時間がありますけど、いかがでしょうか。

○ 石川奈緒構成員

アンコンシャス・バイアスについて、また講習会もやられるということで良い取組だなと思っていますが、岩手大学でもそういった取組をやっています。経営者の方に聞いて欲しいというお話でしたが、特に若い経営者、むしろ若い方が聞かないといけないと思っていて、男子学生にも女子学生にもこの話をしないといけないと思っています。ジェンダーをやっている先生に聞いたことがあります、バイアスを持っている人の下で働いていると再生産が行われて、結局、下の人も同じような考え方になってしまうというふうに言われていました。私は前は若い世代が育ってくれば、平等な、男女関係なく仕事ができる社会になるんだろうなと勝手に思っていたんですが、そうじゃないんだということを研究をしている方に言われました。上の人の意識を今から変えるのはなかなかちょっと難しいと思うんです。だから若い、まだちょっと頭の柔らかい方々にしっかり講習をしてもらって、意識を植えてもらって、期間はかかると思うんですけど、そうすると男女、あと外国人の方も入ってこられるかもしれませんけれど、うまく回っていくのかなと思います。

アンコンシャス・バイアスについて、女性だからこういうことはできないんじゃないかと日本人は察することは得意ですけど、察しないで欲しい、聞いて欲しいということを言われている方がいました。実は女性もできることが結構あるので、そういう対話をしながら、もう少しここが上手くいくと、女性の入職者も増えるのかなと思います。そして定着していくのではないかと皆さんの話を聞いていて思いました。

○ 沖野智章座長

ありがとうございます。それでは、大体予定の時間になって参りましたので、いろいろ御意見を頂戴いたしましたけれども、本日の御意見を参考に事務局の方には中期プランの骨子案を素案に向けて、作業をお願いしたいと思います。

(3) その他

○ 沖野智章座長

次に議題の3、その他でございますが、皆様から特に本日の議論に付け加えることとか、何かその他ということがあれば、お願いします。

それでは、大体用意していた議事は以上でございますが、ここで伊藤総括課長から一つコメントいただきたいなと思います。

○ 事務局（伊藤県土整備部技術参事建設技術振興課総括課長）

それでは、事務局を代表して最後にお話をさせていただきます。今日はたくさんお話いただきました。現行プランの状況、評価については、特に大きい指摘がなかったと思いますけれども、やはり次期プランの在り方、方向性について、たくさんお話いただきましたので、次の第2回検討会でお示しする予定の素案の段階で、より具体的な内容として提案をしたいと思っています。

それから、今月からですね、13地域を回って、建設業地域懇談会が始まりますので、そういった中でも各地域の建設業の皆様の声を拾いながら、反映をして参りたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○ 沖野智章座長

はい。ありがとうございました。委員の皆様方にはちょっと言い足りなかったですとかあるかもしれませんが、その辺りは後で事務局にメールでいただければ非常に助かります。

それでは以上で議事を終了したいと思います。事務局に進行を戻したいと思います。ありがとうございました。

6 その他

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

沖野技監、進行ありがとうございました。最後にその他として、事務局から事務連絡をさせていただきます。

○ 県土整備部建設技術振興課 大畑主事

本日はありがとうございました。今後のスケジュールにつきましての御連絡でございます。次回、第2回の検討会は11月に開催を予定しております。日程調整につきましては、また改めて皆様の方に御連絡させていただきますので、引き続き御協力のほど、よろしくお願いいたします。

7 閉会

○ 篠木県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

本日は皆様から様々な御意見ありがとうございました。事務局の方でいただいた御意見を整理して、次期プランの素案の作成を進めて参りたいと思います。

以上を持ちまして、第1回次期「いわて建設業振興中期プラン」検討会を終了いたします。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。